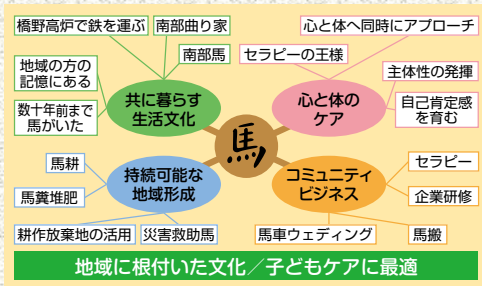


「釜石が馬車の走るまちになるかもしれない!?!」



(図)なぜ、馬なのか？
(釜石ハローホース倶楽部提供資料)



(表)これまでの取り組み

2月	地域づくり(橋野)の勉強会
5月	ホーストレッキング・馬とのふれあい体験(橋野・栗林・鶴住居)復興シンポジウム「橋野の暮らしから地域の未来を拓く～馬文化と曲り家の再生を通じて～」
10月	由布院講演会「観光馬車によるまちづくりの推進～震災からの復活」(鶴住居)
11月	馬車テスト運行(市街地巡回コース、鶴住居地区往復コース)

※来年は障がい児など子どものケア事業も予定されています

先月、馬車が市内(東部地区、鶴住居地区)を走りましたが、突然馬車が現れ、驚かれた人も多いのでは。今回はなぜ馬車が走ったのか、その謎に少し迫ってみたいと思います。

この試みは、釜石リージョナルコーディネーター(釜援隊)の釜石ハローホース倶楽部が馬文化をよみがえらせ、観光客を呼び込む取り組みの一環として行われたものです。これまでの取り組みは(表)のとおりです。

釜石の馬文化

かつて、釜石の山間部(特に橋野)では、馬と共に暮らす生活文化がありました。橋野は遠野と大槌を結ぶ中継点であったことや橋野高炉の操業などで、馬が荷物を運ぶ役割を果たしていました。そのため馬は、生活になくてはならない存在でした。母屋と馬屋がし字型に一体

化し、人と馬が一つ屋根の下で暮らす造りの「南部曲り家」もあつたと聞きます。当時活躍していた「南部馬」は絶滅していますが、道産子の掛け合わせによつて南部馬に近い種をよみがえらせ、橋野の馬文化を継承していく構想もあるようです。

馬には癒しの効果も

「ホースセラピー」という言葉もあるとおり、医療において馬の癒やしの効果が認められており、海外では健康保険が適用される場合もあるそうです。震災により子どもたちが抱えた心身のストレスにも、馬の癒やし効果の有効とこのことです。

今後の事業展開は?

観光馬車の成功例としては湯布院が有名ですが、実は、湯布院もかつて大分県中部地震で観

光客が激減したそうです。逆境の中で馬車を走らせてまちをPRしなことが、今のまちづくりにつながっています。実際の事業展開には、地元住民や関係団体の理解・協力、専門スタッフの育成など課題も多くありますが、釜石のまちを馬車が走れば、馬車自体が観光資源となる上、点在する観光地をつないで、観光の回遊性を向上させることが出来るメリットもあります。また、雇用の創出も望めることともに、有事の際、災害救助馬としての活躍も期待できます。

この試みは釜石の新しい魅力となりうるのでしょうか。今後も注目していきたいと思っています。

※道路交通法上、馬車は軽車両で、車道を走ることが出来ます
※この事業についてのお問い合わせは、釜石ハローホース倶楽部の茨木さん
☎090-6301-18639まで

橋野高炉跡 ⑩ 世界遺産登録に向けて

2015年世界遺産登録目前! 橋野鉄鉱山世界遺産シンポジウムを開催します

- ◆日時 12月6日(土) 10時30分～17時
- ◆会場 県立釜石商工高校 4階 はまゆりホール
- ◆入場料 無料(定員200人)
- ◆内容

【午前の部】10時30分～12時
■鉄の学習発表会：甲子中学校、白山小学校、釜石東中学校

【午後の部】13時30分～17時
■講演①「大島高任の偉業について(仮題)」
〔講師：釜石応援ふるさと大使 大島輝洋氏〕
■講演②「『明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域』の世界遺産への取り組みについて(仮題)」
〔講師：一般社団法人産業遺産国民会議 専務理事 加藤 康子氏〕

- パネルトーク
「橋野鉄鉱山の世界遺産登録に向けて」
加藤 康子氏
大島 輝洋氏
小野寺 英輝氏〔岩手大学工学部准教授〕
藤原 昌教氏〔橋野町復興協議会事務局長〕
三浦 達夫氏〔釜石観光ボランティアガイド协会会长〕

- ◆主催 市・市教育委員会
橋野鉄鉱山世界遺産登録推進委員会
- ◆共催 鉄のふるさと釜石創造事業実行委員会
- ◆後援 岩手県、岩手県教育委員会
「九州・山口の近代化遺産群」世界遺産登録推進協議会

【問い合わせ】市世界遺産登録推進室 (☎22-2111 内線105)